法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-08-19

古川文庫蔵書目録 : 付 能・狂言資料解題

橋本, 朝生

(雑誌名 / Journal or Publication Title)
能楽研究 : 能楽研究所紀要
(巻 / Volume)
26
(開始ページ / Start Page)
127
(終了ページ / End Page)
159
(発行年 / Year)
2002-03-30

古川文庫蔵書目録（付 能・狂言資料解題）

橋本朝生

はじめに

能楽研究所発足以来昭和五六年まで兼任所員であった古川久氏は平成六年に亡くなられたが、生前、平成元年に、その蔵書のうち狂言および能に関する書物のほとんどが能楽研究所の所蔵に帰した。移管に際して、本誌一六号の「彙報（平成元年度）」に仮書目のまま目録が掲載され、「古川文庫」として閲覧に供されてきている。その折「善本については別に解題を加えて紹介するはず」とされていたのを、いま果たすこととしたい。

古川氏についてはいまさら紹介するまでもなく、また本誌二〇号の表章氏「追悼古川久先生」に詳しいが、狂言研究の草分けとして知られる。多趣味な方であり、文庫の内容は多岐にわたる。収書するばかりでなく、氏自身蔵書をもとにいくつかの論文を発表されているが、実は中心となる狂言関係の写本には貴重なものがあるにも拘らず未紹介のものが多い。『国書総目録』の「能間」「能狂言」の項は氏が作成されたものだが、奥書があって成立年次の明確な六本（一3・4・5・26・37・二1）をあげられたにとどまっており、その他にも珍しいものが少なくないのである。

それらを内容に応じ、一本狂言写本、二その他狂言関係写本、三狂言記版本、四間狂言版本、五照葉狂言版本、六その他狂言関係、七能関係写本、八能関係版本、九その他能関係、十その他写本、十一その他版本、十二その他に分類し、一については大蔵流・和泉流・鷺流・流派不明の順、二以下については内容別に成立・刊行順に配列し、能・狂言関係の写本・版本には善本に限らず原則として解題を付す。番号・書名は前述の旧目録を参照しつつ新たに付し、旧目録の番号・書名を（　）で示す。古川氏自身は表紙に付箋を貼り朱で番号を書いて整理されていたようで、この番号も〔　〕で示す。所収曲名の表記は本文中の標題による。寸法の単位はミリ。蔵書印のうち、古川氏の「水不断」（朱陰刻。「古川に水絶えず」の成句に由来する）は「古川氏印」とする。三狂言記版本については、《曲目》は省略する。その他、底本に存する

書名は『　』で、仮に定めた書名は「　」でくくるなど、書式は『鴻山文庫蔵能楽資料解題』に倣ったところが多い。石田元季氏旧蔵本が数点あるが、石田氏は名古屋在住、近世文学特に俳文学の研究者として知られた方で、古川氏の愛知医科大学予科以来の恩師である。

なお能楽関係の解題について他の所員の協力を得た。

一　本狂言写本

1　吹田定与筆大蔵流狂言本（一32元文五年吹田定与筆狂言十一番本）〔二十六〕　一冊

袋綴。235×165。布目地灰色表紙。左上に打付で「狂言集」と記す。料紙は楮紙。墨付三七丁。片面一四～一七行。一丁に所収曲目録あり。古川氏印の他、松本市の住所印あり。

《奥書》庚元文五年／申七月吉祥日／吹田定與

《曲目》伯養・清水・靱猿・宗八・水懸むこ・通円・名取川・ぶす・栗焼・膏薬煉・鱸庖丁

《内容》〈靱猿〉に「弥右衛門流うた」を付記、〈通円〉は別筆で「此狂言弥兵衛筆也」とある。〈鱸庖丁〉は途中で「下略ス」とし、語リを記す。所作付の注記があり、稽古本なのであろう。吹田定與については未詳。また弥兵衛も未詳だが、内容・詞章から見て大蔵流の台本と考えられる。この時期のものとして貴重。一一曲所収。

2　紹貞筆大蔵八右衛門派狂言本（一1半紙本十番綴狂言本）〔二十三ノ一～十五〕　一五冊

袋綴。223×157。藍色表紙。左上に題簽を貼り、二～一一冊に「狂言記自参至四（～自拾七至拾八・附伝物之部）」（一冊・一〇冊は剥離）、一二～一五冊に「間語書」と記し、所収曲目録を貼付する（一二冊は剥離）。一冊に二巻を収め（「間語書」七・八は欠巻）、巻ごとに「狂言記巻之壱（～弐拾・附伝物之部）」「能間語巻之壱（～拾）」のごとく内題があり、所収曲目録がある。料紙は楮紙。墨付［狂言記］［壱・弐］八三丁［参・四］六〇丁［五・六］七八丁［七・八］五六丁［九・拾］五九丁［拾壱・拾弐］七五丁［拾参・拾四］六五丁［拾五・拾六］七三丁［拾七・拾八］七九丁［拾九・弐拾］六二丁［附伝物之部］二〇丁［間語書］［壱・弐］五〇丁［参・四］六七丁［五・六］四九丁［九・拾］四三丁。片面七行。

《奥書》享和元酉臘月日　紹貞（花押）

《曲目》［狂言記］［壱］栗焼・梟山伏・さつくわ・引くゝり・瓜盗人［弐］末広・膏薬煉・棒しばり・盆山・飛越［参］萩大名・かき山伏・痩松・酢はじかみ・福の神［四］鼻取相撲・文すもふ・蚊すもふ・胸つき・雷［五］千鳥・伯養・蟹山ぶし・不聞座頭・鬼瓦［六］竹生嶋詣・おばが酒・宗論・骨皮・節分［七］入間川・腹立ず・仏師・茶つほ・墨塗［八］秀句傘・呂蓮・祢宜山伏・犬山ぶし・悪坊［九］二千石・磁石・縄ない・横坐・うつぼ猿［拾］三本柱・昆布売・成リ上リ・子盗人・朝比奈［拾壱］鴈大名・丼かつち

り・楽阿弥・鶏聟・庖丁聟［拾弐］麻生・しみづ・ぶあく・右近左近・米市［拾参］今参・ぶす・因幡堂・祐善・三人片わ［拾四］二人大名・いぐゐ・二人袴・ひし聟・猿坐頭［拾五］昆布柿・悪太郎・鱸庖丁・ぬけがら・首引［拾六］粟田口・柑子・厂礫・吃り・かま腹［拾七］宝の槌・八句連哥・鐘の音・空うて・どん太郎［拾八］八幡の前・素袍落・しとふ方角・御茶の水・鬮罪人［拾九］舟渡し聟・鏡男・鬼の継子・太刀奪・腰祈［弐拾］鍋八撥・布施無経・宗八・唐相撲［附伝物之部］比丘貞・枕物狂い［間語書］［壱脇能之部］高砂・老まつ・弓八幡・難波・賀茂・竹生嶌・白楽天・氷室・白髭・養老［弐］邯鄲・うかひ・実盛・鶴亀・あしかり・自然居士・鉢の木・殺生石・よしの静・雲雀山［参］羅生門・雷電・梅枝・六浦・采女・浮舟・善知鳥・雲林院・右近・の丶宮［四］田むら・八嶌・箙・兼平・忠則・より政・敦盛・通盛・朝長・野守［五］東北・楊貴妃・松風・江口・井筒・当广・誓願寺・定家・はせを・藤［六］花月・熊坂・車僧・鞍馬天狗・小袖曽我・小督・天鼓・放下僧・金輪・ぜがひ［九］松むし・枕慈童・項羽・現在鵺・冨士太鼓・舟橋・調伏曽我・元服曽我・源太夫・海人［拾］船弁慶・烏帽子折・百万・班女・唐船・三井寺・融

《内容》間狂言を含む。紹貞は未詳だが、［拾九］の〈舟渡し聟〉の舅と船頭が同一人である等、内容・詞章から見て大蔵八右衛門派の台本と認められる。［狂言記］の［附伝物之部］は目録には二曲の後〈釣狐〉〈花子〉をも記すが、本文は〈釣狐〉の標題を記したところで終り、白紙が一三丁あって、終丁裏に「右四番は当流重き伝ものニ／候へども依御執心ニ書写し畢／ゆめ〳〵不可為他見もの也」とあって奥書がある。［間語書］の［拾］は目録には七曲の後〈道成寺〉〈加茂御田〉〈八島那須〉をも記すが、本文は〈道成寺〉の標題を記したところで終り、白紙八丁がある。狂言一〇一曲、間狂言九二曲を収めるまとまった台本として貴重。

3　かわの所持大蔵八右衛門派十四番狂言本（一15中型横本

青表紙狂言本）〔十一〕　一冊

袋綴。132×197。青色唐草模様（型押）表紙。外題なし。料紙は楮紙。墨付一一六丁。片面一一～一三行。一丁に所収曲目録あり。

《奥書》このほん任所望て／まゐり候共御一／覧之上早々御返し／□□□（難読）已上／かわのかしく

《曲目》因幡堂・白養・盆山・水汲・狐塚・おにの継子・引括・金津・長光・千とり・とん太郎・磁石・芥川・瞽女座頭

《内容》〈磁石〉までと〈芥川〉以下は別筆。〈磁石〉末に「此狂言之書御譲り申候／御落手可申上候無御油断／御出精専一□（難読）申候詔ニ／御座候事／干時寛政十午稔／三月吉祥日／大森芦部／清水□（手偏に魚）魚雅丈」とあり、〈瞽女座頭〉の末に「かちまち／かわのかしく」とある。大森芦部所持本を「かわの」が入手し、自分の所持本を後補したものであろう。大森所持本の〈水汲〉の曲名、後補の〈芥

川〉〈瞽女座頭〉について目録に「外五番狂言之内也」の注記があること、また内容・詞章から見て、全体が大蔵八右衛門派の台本と認められる。なお〈因幡堂〉の標題はない。『国書総目録』には和泉流に「狂言十二番」（寛政一〇奥書）として載せられている。一四曲所収。

4　玉木貞蔵筆大蔵流狂言本（一17中型横本大蔵流狂言拾遺）〔一〕　一冊

袋綴。134×204。薄茶色表紙。中央に打付で「大蔵流狂言拾遺」と記す。料紙は楮紙。墨付五四丁。片面一五行。一丁に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《奥書》通計十三番狂言本／一読令加朱者也／文政六癸未年三月　大蔵弥太郎（印）／文政四辛巳年九月以長命氏本写之了／大蔵家門人／玉木貞蔵良延

《曲目》鏡男・通円・八尾・節分・首引・鬼之継子・政頼・祢宜山伏・犬山伏・梟・八句連歌・胸突・瓜盗人

《内容》文政四年に玉木貞蔵なる者が「長命氏本」を書写したものに六年に大蔵弥太郎が加筆したもの。弥太郎は二〇代虎文。笹野堅氏「古本能狂言・間につきての研究―大蔵流本―」（『国文学研究』8、昭和12・6）によれば「長命弥次兵衛間之本」なる本があり、長命弥次兵衛筆本に天保四年に虎文が「加朱潤色」したとあるとのことである。この本と関係するか。長命弥次兵衛は鷺流の長命家との関係は不明、寛政六年の大蔵八右衛門虎良の大坂勧進狂言に出演している。詞章は虎寛本に近い。「拾遺」の書名を付したのは玉木であろうが、所収曲は通行曲。朱は誤字・脱字の訂正の他、一文を削ったり加えたりしたところが若干ある。大蔵流宗家が関与した本として貴重。一三曲所収。

5　中村所持大蔵流五番綴狂言本（一16中型横本五番綴狂言本）〔六〕　一冊

袋綴。142×204。緑色表紙。外題はなく、中央に所収曲目録を貼付する。料紙は楮紙。墨付二一丁。片面一四行。見返しにも所収曲目録あり。古川氏印あり。

《奥書》文政五年二月／中村姓

《曲目》成リ上リ・痩松・子盗人・腰祈・太刀奪

《内容》中村については未詳だが、内容・詞章から見て大蔵流の台本であろう。『国書総目録』に「狂言五番」として載せられ、（安政五奥書）とあるが、文政の誤刻。五曲所収。

6　長秀斎筆大蔵流狂言本（一30・31黄色表紙半紙本長秀斎写狂言本）〔十二ノ一・二〕　二冊

袋綴。235×160。黄色卍つなぎ（型押）模様表紙。左上に題簽を貼り「狂言　一（弐）」と記す。料紙は楮紙。墨付〔一〕四〇丁〔弐〕二九丁。片面一二行。見返しに所収曲目録あり。古川氏印あり。

《奥書》癸未寿星上旬　写之／長秀斎（印）

《曲目》〔一〕いろは・飛越・茶つぼ・舎弟・土筆・清水・文

蔵・二千石・不聞座頭［弐］磁石・通円・右近左近・宗論・宗八

《内容》長秀斎については未詳だが、内容・詞章から見て大蔵流の台本であろう。各曲が始まる丁の端に曲名と曲順を示す数を記すが、［一］は九まで、［弐］は廿一から廿五までで、元はもう一、二冊あったものか。江戸後期書写らしく、癸未は文政六年か。寿星は八月。一四曲所収。

7　大蔵流十九番狂言本（一20中型横本白茶色表紙狂言十九番）　一冊

袋綴。139×200。薄茶色表紙。外題はなく、中央に所収曲目録を貼付する。料紙は楮紙。墨付一五二丁。片面一一行。奥書なし。「笑家文庫」の印あり。

《曲目》比丘定・祐善・財宝・重喜・朝比奈・八尾・鬮罪人・止動方角・鶏立・縄ない・悪坊・猿座頭・梟山伏・右近左近・い文字・御茶の水・酢薑・骨皮・横座

《内容》〈重喜〉の末に弘化三年に弥右衛門虎武が江戸城本丸大奥で演じたとの注記があるが、天理図書館蔵橋本政孝所持大蔵流七番本にも同じ注記がある。〈重喜〉はこの後、嘉永二年に大蔵流所演曲に加えられている。その頃の大蔵流の台本であろう。なお〈い文字〉の本文は途中までしかない。一九曲所収。

8　西村昇禄所持茂山家狂言本（一43安政・文久大蔵流西村昇禄所持狂言九番）〔四〕　一冊

袋綴。238×165。斜め刷毛目模様表紙。打付で中央に所収曲目録を記し、右に「大蔵流狂言尽九番」、左に「安政三辰春終／茂山千五郎社中／大蔵流西村昇禄所持」と記す。料紙は楮紙。墨付五一丁。片面八～一二行。奥書なし。古川氏印あり。

《曲目》井礑・茶壺・狐塚・腹不立・蟹山伏・水掛聟・附子・鴈礫・宗論

《内容》もと〈腹不立・蟹山伏〉〈水掛聟・附子〉は二番本、他は一番本で、それらを合綴したもの。〈井礑〉の標題下に「太寿叟（印）」、〈茶壺〉原表紙裏に「服部得治郎」、〈腹不立・蟹山伏〉の原表紙に「嘉永七甲寅閏七月改」「茂山千五郎門中／西村昇禄所持」、〈水掛聟〉〈附子〉の原表紙に「嘉永七甲寅八月吉日」、〈宗論〉標題横に文久二年の上演記録、末尾に「太寿叟鳳斎（印）／次之」とある。〈井礑〉と〈狐塚〉は同筆。太寿鳳斎・服部得治郎・西村昇禄いずれも未詳だが、茂山家台本を安政三年に西村昇禄がまとめたものなのであろう。九曲所収。

9　大蔵流十二冊狂言本（一4中型横本淡黄色表紙狂言本）　一二冊

袋綴。132×200。淡黄色表紙。中央に所収曲目録を貼付し、左下に「共十七冊」とある。料紙は楮紙。墨付［一］四一丁［二］四六丁［三］二五丁［四］五九丁［五］三三丁［六］

四〇丁〔七〕五〇丁〔八〕三九丁〔九〕三一丁〔十〕七七丁〔十一〕五二丁〔十二〕二二丁。奥書なし。「笑家文庫」の朱印あり。冊順は私見による。

《曲目》〔一〕麻生・三本柱・松脂・唐相撲・大黒連歌・恵比寿大黒・恵比寿毘沙門〔二〕鎧・鍋八撥・煎物・牛馬・三人夫・筑紫奥・餅酒〔三〕今参・文相撲・鼻取相撲〔四〕昆布売・米市・居杭・口真似・察化・富士松〔五〕花争・鐘の音・栗焼・成上り・あかゝり・しひり〔六〕岡太夫・水掛聟・引鋪聟・鶏聟・八幡前・船渡聟〔七〕吃・鎌腹・河原太郎・千切木・鏡男・因幡堂〔八〕節分・首引・鬼の継子・清水・抜柄・政頼〔九〕三人片輪・祢宜山伏・犬山伏・蟹山伏・柿山伏〔十〕不聞座頭・惣八・伯養・悪太郎・宗論・腹立す・薩摩守・呂蓮〔十一〕竹の子・文山立・八句連歌・胸突・土筆・合柿・以呂波・膏薬煉〔十二〕饅頭・樋の酒・花盗人

《内容》分類意識が認められる。その分類の仕方や内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。朱で型付を記すものが若干ある。一二冊に七一曲所収。もと一七冊あったとすれば、かなりまとまったものである。

10　大蔵流十六番狂言本（一8大型本狂言十六番）〔十〕

一冊

袋綴。265×190。臙脂色表紙。左上に題簽を貼るが、外題は記されていない。料紙は楮紙。墨付八五丁。片面一一行。奥書なし。一丁裏に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《曲目》餅酒・三人夫・筑紫奥・鴈厂金・昆布柿・鞍馬参・唐相撲・布施無経・引鋪聟・吃・三人片輪・文山立・宗論・飛越・伊文字・胸突

《内容》内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。〈宗論〉の付記に「右狂言所々習有功者役也法問をトク内口伝有別冊ニ記之」とある。一六曲所収。

11　大蔵流十番綴狂言本（一9半紙本狂言集十番本）〔四十七ノ一・二〕　二冊

袋綴。235×166。茶色表紙。左上に題簽を貼り、一冊めは上に「狂言」と記し、所収曲目、二冊めは所収曲目のみを記す。一冊めの内題に「狂言記第四」と記す。料紙は楮紙。墨付〔一〕六〇丁〔二〕六七丁。片面一〇行（〈呂蓮〉のみ一五行）。奥書なし。一冊めの冒頭に所収曲目録があり、登場人物・道具を付記する。古川氏印の他、二冊めの終丁に「南□（三水に捷の旁）」の朱印二種あり。

《曲目》〔一〕今参・文相撲・鼻取相撲・蚊角力・入間川・粟田口・秀句傘・靱猿・萩大名・二人大名〔二〕祢宜山伏・随方角・宗八・入間川・靱猿・棒縛・磁石・文山立・伊文字・呂蓮

《内容》〔二〕には別筆がまじる。〈靱猿〉〈入間川〉が重出するが、ほぼ同文。内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。朱で型付・節付を記すものがある。二〇曲所収。

12　和泉流九番狂言本『狂言目録』（一10半紙本狂言集（狂言目録）九番）〔三十八〕　一冊

袋綴。242×170。黄色布目地に草花（型押）模様表紙。左上に打付で「狂言目録」と記す。内題に「狂言目録　乾」とある。裏表紙見返しに「ながた／武市」とある。料紙は楮紙。墨付五六丁。片面八行。奥書なし。古川氏印あり。

《曲目》芥川・伯母が酒・膏薬煉・不須・二九十八・しびり・蜂・宗論・魚説法

《内容》〈蜂〉は番外曲。能楽研究所蔵松井家五冊本にあり、大蔵流の紀州松井家で作られたものらしいが、和泉流台本である国会図書館蔵『祖家秘書狂言大全集』にもある。これも内容・詞章から見て江戸後期の和泉流の台本であろう。拙稿「狂言台本・曲目所在一覧」（『中世史劇としての狂言』平成9）で大蔵流としたのを改める。九曲所収。

13　大蔵流六番狂言本（一18中型横本狂言六番）〔五〕　一冊

袋綴。135×200。茶色地手鞠模様表紙。左上に題簽を貼るが、外題は記されていない。料紙は楮紙。墨付一〇丁。片面二三～四〇行。奥書なし。古川氏印あり。

《曲目》竹生嶋参リ・盆山・茶壺・飛越・清水・察化

《内容》一丁表に〈釣狐〉の舞台図、二丁表に所収曲目録がある。内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。六曲所収。

14　松原所持大蔵流狂言本（一29大蔵流狂言本）〔二〕　一冊

袋綴。255×163。薄茶色地格子模様表紙を後補。中央に所収曲目録を貼付する。本文共紙の原表紙に所収曲目を記して「大倉流」とあり、右下に「松原氏」と記す。料紙は楮紙。墨付三三丁。片面七～九行。奥書なし。古川氏印あり。

《曲目》鶏聟・狐塚・薩摩の守

《内容》〈狐塚〉は小歌入り。松原氏は未詳だが、内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。三曲所収。

15　高辻所持大蔵流狂言本（一33高辻某所持狂言本）〔八〕　一冊

袋綴。225×158。藍色表紙を後補。左上に題簽を貼るが、外題は記されていない。本文共紙の原表紙に所収曲目を記し、右下に「高辻性所持」とある。料紙は匡郭（192×135）のある楮紙で、柱刻は下部に「元」とある。墨付二六丁。片面九行。奥書なし。古川氏印あり。

《曲目》萩大名・かうじ・舎弟・薩摩守

《内容》高辻氏については未詳だが、内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。四曲所収。

16　大蔵流二番狂言本（一35黒表紙横型狂言本）　一冊

袋綴。146×224。藍色表紙。外題なし。料紙は楮紙。墨付二三丁。片面一三行。奥書なし。

《曲目》入間川・伯養
《内容》内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。所収曲はあまり初心者向きではないが、稽古本なのだろう。二曲所収。

17　大蔵流五番綴狂言本（一36黄色表紙半紙本狂言本）〔十七〕　一冊
袋綴。235×159。黄色地鳳凰唐草（型押）模様表紙。外題なし。料紙は楮紙。墨付二五丁。片面一一行。奥書なし。一丁に所収曲目録あり。古川氏印あり。
《曲目》鏡男・鴈礫・鐘音・鈍太郎・祢宜山伏
《内容》内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。五曲所収。

18　大蔵流五番狂言本（一40薄茶色表紙五番綴狂言本）〔五十六〕　一冊
袋綴。230×163。薄茶色表紙。中央に所収曲目録を貼付する。料紙は楮紙。墨付三七丁。片面七行。奥書なし。古川氏印あり。
《曲目》祢宜山伏・井□（井の肩に点）・因幡堂・萩大名・居杭
《内容》内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。五曲所収。

19　大蔵流十五番狂言本（一44格子表紙狂言本）〔二十九〕　一冊
袋綴。234×166。薄茶色地格子模様表紙を後補。一丁表に所収曲目を記し、左に「六儀」とある。外題なし。料紙は楮紙。墨付七〇丁。片面八行。奥書なし。「翠蔭」黒印、古川氏印あり。
《曲目》いろは・しひり・鞍馬参・柑子・酢姜・あかゝり・昆布売・船ふな・ほう〳〵頭・富士松・竹生嶋参・土筆・舎弟・鶏りう・ふす
《内容》内容・詞章から見て江戸後期の大蔵流の台本であろう。別筆で〈二千石語〉を記す一葉がはさみこまれている。一五曲所収。

20　茂山正虎所持狂言本『倉八傳書』（一6中型横本狂言本倉八伝書）〔三十九〕　一冊
袋綴。128×200。渋引表紙。中央に打付で所収曲目を記し、右に「倉八傳書」とある。裏表紙に「茂山千五郎正虎（花押）」の署名あり。料紙は楮紙。墨付九七丁。片面一一行。奥書なし。「紫景文庫」朱印、古川氏印あり。
《曲目》鞍馬参・鴈礫・靱猿・粟田口・今参・入間川・鴈大名・二人大名・三本柱・麻生
《内容》表紙に「倉八傳書」とあるが、「倉八」は大蔵流弟子家の倉谷八三郎か。詞章は大蔵虎寛本とあまり変らない。署名は所持を示すものであろう。正虎は茂山千五郎家九代。明

治一九年没。一〇曲所収。

21　佐倉所持大蔵八右衛門派狂言本（一2半紙本五番綴狂言本）〔二十四ノ一～十〕　一〇冊

袋綴。235×165。青色地［一］は雷文つなぎに草花（型押）［二］以下は布目（型押）模様表紙。中央に所収曲目録を貼付し、その左下に冊順を記す。各冊裏表紙見返しに「佐倉氏所持」とある。料紙は楮紙。墨付［一］二六丁［二］三八丁［三］二七丁［四］二八丁［五］三五丁［六］三二丁［七］二一丁［八］一七丁［九］三六丁［十］二七丁。片面一一行。奥書なし。古川氏印あり。

《曲目》［一］花争・柑子・伯母酒・不聞座頭・萩大名［二］柿山伏・清水・宗八・膏薬煉・雷リ［三］盆山・竹生嶋参リ・蚊角力・仏師・茶坪［四］悪坊・伊文字・千鳥・名取川・鬼継子［五］八句連哥・胸突・附子・狐塚・鬼瓦［六］川原太郎・察化・不腹立・棒縛・文山立［七］舎弟・薩广守・骨皮・水汲・花折［八］水懸聟・音曲聟・鶏聟・引鋪聟・賽目［九］牛馬・鍋八鉢・豊三・横座・空腕［十］昆布売・右近左近・吃リ・髭やくら・老武者

《内容》［七］の〈水汲〉は表紙の目録には〈御茶水〉とある。佐倉氏については未詳だが、内容・詞章から見て、江戸後期の大蔵八右衛門派の台本であろう。五〇曲所収。

22　大蔵八右衛門派三冊狂言本（一21薄様紙横本大蔵流狂言本）〔六十三〕　三冊

袋綴。115×174。茶色布表紙。紙箱入。箱上に題簽を貼り「大蔵流／狂言」と記す。料紙は斐紙。墨付［一］一七四丁［二］二〇四丁［三］二一六丁。片面一七行。奥書なし。箱裏に旧蔵者のメモがあり、大正八年に「博物館役員高谷三郎」の遺物を求めたこと、「旧奉行所五軒屋敷与力橋本菊右衛門事狂言師名藤一中間狂言師匠狭川賢作」か「元興寺町中途東へ入八右衛門辻子ニ高安トイウ師匠」の所持したものかとある。また箱の底に昭和三五年に奈良で求めたむねの古川氏のメモがある。

《曲目》［一］末広・麻生・目近・三本柱・煎物・松脂・大黒連歌・連歌毘沙門・蛭子毘沙門・蛭子大黒・福之神・鞍馬参・隠笠・宝之槌・鎧・鍋八撥・牛馬・唐相撲・餅酒・雁かりかね・昆布柿・三人夫・筑紫奥・鶏聟・岡太夫・音曲聟・八幡前・庖丁聟・水掛聟・二人袴・引敷聟・賽之目・船渡聟・文相撲・鼻取相撲・人馬・蚊相撲・今参・秀句傘・粟田口・入間川・靱猿・萩大名・二人大名・禁野・雁礫・雁盗人・墨塗・鬼瓦［二］通円・楽阿弥・祐善・章魚・法師母・塗師・若市・老武者・髭櫓・名取川・地蔵舞・宗論・布施無経・呂蓮・腹不立・薩摩守・仏師・金津・花折・骨皮・御茶水・飛越・惣八・悪坊・悪太郎・猿座頭・井喝沈・伯養・不聞座頭・三人片輪・祢宜山伏・犬山臥・蟹山伏・柿山伏・腰祈・梟山伏・朝比奈・矢尾・政頼・首引・節分・鬼継子・

雷・清水・抜売・伯母ケ酒・鬮罪人・鈍太郎・河原太郎・因幡堂・引括・鏡男・痩松・吃り・鎌腹・右近左近・千切木・子盗人［三］二千石・文蔵・鱸庖丁・富士松・竹生嶋参・北野参・船ふな・鶏流・花争・以呂波・痺り・燗り・柑子・昆布売・千鳥・察化・口真似・栗焼・空腕・鐘之音・素袍落・狐塚小唄付・狐塚小唄ナシ・縄綯・伊文字・止動方角・武悪・棒縛・附子・居杭・太刀奪・真奪・長光・茶壺・磁石・成上り・文山立・瓜盗人・盆山・連歌盗人・八句連歌・横座・竹の子・土筆・酢薑・膏薬煉・舎弟・胸突・米市・合柿・清水毘沙門・連尺・瞽女座頭・菌山伏・芥川・角水・鈍根草・泣尼・木六駄・松楪・財宝・花盗人・樋之酒・饅頭

《内容》薄い紙に細字でびっしりと書かれている。曲ごとの改丁もないが、［三］は〈清水毘沙門〉と〈松楪〉で改丁。〈清水毘沙門〉以下九曲が大蔵八右衛門派番外曲、〈松楪〉以下五曲が弥右衛門派番外曲である。通行曲は重い習いの〈比丘貞〉〈枕物狂〉〈釣狐〉〈花子〉を除く全曲で、内容・詞章から見て八右衛門派の台本と認められる。分類順の配列で、〈鞍馬参〉を脇狂言として扱うらしい。〈木六駄〉は山本東次郎家台本に近い。一葉がはさみこまれており、〈おはらき〉〈龍田川辺〉を記す。メモにいう橋本藤一は橋本政孝、明治一九年没、六五歳、その所持本が鴻山文庫・天理図書館にある。高安は高安甚兵衛か。江戸後期の大蔵流両派全一七一曲を載せるものとして貴重。

23　大蔵八右衛門派十番綴狂言本（一46半紙本十番綴狂言本）［二十五ノ一～十］　一〇冊

袋綴。238×167。薄青色表紙。中央に所収曲目録を貼付する。内題に「狂言目録巻第六（～十五）」とあり、小口にも「巻之六（～十）」「巻十一（～十五）」とある。料紙は楮紙。墨付［六］六三丁［七］八八丁［八］六四丁［九］七三丁［十］六一丁［十一］五三丁［十二］八〇丁［十三］九八丁［十四］五四丁［十五］七八丁。片面八行。奥書なし。各冊一丁表に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《曲目》［六］祢宜山伏・犬山伏・柿山伏・蟹山伏・梟・腰祈・聞ス座頭・伯養・井喝沈・猿座頭［七］薩摩守・腹立す・飛越・名取河・地蔵舞・布施無経・宗論・呂蓮・骨皮・花折［八］仏師・水汲・惣八・悪坊・悪太郎・矢尾・雷・節分・朝比奈・政頼［九］首引・鬮罪人・清水・脱虚・姨酒・瓜盗人・連歌盗人・子盗人・盆山・磁石［十］長光・茶壺・太刀奪・真奪・文山立・痩松・成挙・千鳥・八句連歌・胸突［十一］通円・楽阿弥・祐善・鮹・塗師・法師母・枕物狂・老武者・髭矢倉・若市［十二］比丘貞・吃・鎌腹・右近左近・鏡男・鈍太郎・因幡堂・引括・最切木・伊文字［十三］止動方角・縄□（糸偏に刃）・素袍落・武悪・棒縛・毒・三人片輪・察化・口真似・虚腕［十四］舟船・鶏流・胼・柑子・北野参・冨士松・栗焼・土筆・舎弟・居杭［十五］昆布売・酢薑・合柿・膏薬練・文蔵・鱸庖丁・鐘音・横座・笋・米市

《内容》内容・詞章から見て江戸後期の大蔵八右衛門派の台本であろう。もと一五冊で通行曲のほとんどを収めていたことになる。一〇〇曲所収。

24　大蔵流仮綴狂言本各種（一23仮綴本各種）［六十五～八十三］　一九冊

仮綴。［一］は130×161。他もほぼ同大。料紙は楮紙。墨付［一］四丁［二］二五丁［三］七四丁［四］六丁［五］一八丁［六］二四丁［七］一一丁［八］四丁［九］九丁［十］三六丁［十一］四〇丁［十二］一四丁［十三］五丁［十四］五丁［十五］一二丁［十六］一九丁［十七］一九丁［十八］二二丁［十九］四丁。［一］～［六］に「□（草冠に夆）里用」の円印がある。冊順は古川氏の整理による。

《曲目》［一］自慢大名［二］枕物狂・釣狐・花子・三番三・因幡堂・悪坊・文山立・金津・地蔵舞ノ囃子・餅酒［三］蛭子毘沙門・連哥盗人・昆布柿・八尾・鎌腹・二人大名・富士山之間・安宅之間・楽阿弥・米市・木六駄・法師が母・呂蓮・盲座頭小唄・不二松・夷子毘沙門・竹之語リ・老武者ノ謡・ほうしが母拍子・花折・人馬・素袍落・靱猿［四］福の神・小舞（土車・若菜・泰山木・敵愾新日本）［五］狂言語リの部（恵比子毘沙門・大黒連歌・蛭子大黒・連歌毘沙門・松脂・雁かり金・牛馬・宝の槌・隠笠・鎧・禁野・二千石・文蔵・鱸庖丁・鏡男・政頼・朝比奈・膏薬煉・横座・悪太郎・酢姜・鈍根艸）・狂言ニ付て之詩歌之事（鍋八ツ撥他）［六］太刀奪・附子・舎弟・釣狐の語り・佚名曲［七］素袍落伯父ト太郎冠者の掛合［八］不聞座頭［九］昆布売リ［十］唐角力・墨塗リ・昆布売・宗論・栗焼［十一］八句連歌・空腕・秀句傘・名取川・八句連歌・柑子俵［十二］麻生・楽阿弥［十三］海士玉のたん・餅酒・放下僧［十四］目録（狂言・外狂言装束付・替装束・習事覚・間狂言習）・月宮殿［十五］一の谷・清水寺・猿座頭酒盛り小謡・木六駄・竹生島ノ間・一ノ谷・小督・春日龍神・絃上・嵐山・鉄輪［十六］正尊・舟弁慶・七騎落・雲雀山・鉄輪・土車・綾鼓・東岸居士・自然居士・調伏曽我・烏帽子折・碪・護法・満仲・摂待・千引・常陸帯・鶏立田［十七］伯母捨・定家・胡蝶・須广源氏・陀羅尼落葉・空蟬・浮舟・雲林院・梅ケ枝・遊行柳・女郎花・錦木・舟橋・松虫・鵜飼・鵺・熊坂・鐘馗・融・当摩・海人［十八］舟橋・松虫・鵜飼・鵺・鐘馗・融・当摩・海人・愛染川・竹雪・邯鄲・俊寛・蟬丸・鳥追舟・黒塚・山姥・盛久・天鼓・藤戸・吉野静・国栖・大江山・篭祇王・水無瀬・忠信・恋重荷・大原御幸・木賊・二人静・車僧［十九］誓願寺・夕顔・輪蔵

《内容》間狂言・謡・語リを含む。［一］の〈自慢大名〉は新作。大名が鬼界が島の隣の珊瑚島の公達を迎え、日本の自慢をするというもの。太郎冠者は公達を新橋停車場に迎えに行く。自慢するのは凌雲閣・吾妻橋など。他に台本の存在を知らない。［二］の〈枕物狂〉は二行しかなく「別本ニアリ」とする。〈文山立〉は謡のみ。〈餅酒〉は和歌のみ。［三］の

〈木六駄〉は山本東次郎家台本に近いが、付箋があり、「六疋ノ牛ノ名」等を記す。〈呂蓮〉は後欠、「跡別本ニ記ス」とある。〈蛭子毘沙門〉と〈夷子毘沙門〉はほぼ同文、末に「天保五午年奈良山口保太良十五才也」とある。〈花折〉は謡のみ。[四]の〈福の神〉は前半は通常通りだが、出現するのは大黒で、〈大黒連歌〉の謡になる。[六]の佚名曲は新作。正月半ばに主人に命じられて二人の冠者が鳥追いをしていると、鶏の精が現れるというものだが、鶏の精の名のりまでで中絶。この冊に明治一四・一六・一八・三五年の上演記録が見える。[七]は罫紙を使用。[十]の〈唐角力〉は前欠。[十一]の〈八句連歌〉は連歌のみ。〈柑子俵〉は表紙の目録に「和泉流」の注記がある。[十三]の〈餅酒〉は謡のみ。[十四]の目録は大蔵八右衛門派のもの。[十五]は小謡と間狂言。[十六]以下は間狂言。[十六]の〈土車〉の末に「右ハ喜多寿山と申合平野卯之助相勤申候」とある。卯之助は八右衛門弟子。[十九]の表紙の目録には三曲の後〈石橋〉〈芦苅〉〈橋姫〉が記されるが、本文はない。江戸末期から明治にかけての大蔵八右衛門派のものらしい。

25　上田松風筆茂山家〈姥ケ酒〉（一14仮綴狂言本姥ケ酒）〔三十三〕　一冊

仮綴。248×173。ボール紙の表紙を後補。本文共紙の原表紙に「大蔵流／姥ケ酒　茂山千五郎社中／上田松風」と記す。料紙は楮紙。墨付六丁。片面一〇行。「元」の石田元季印、古川氏印あり。上田松風は鴻山文庫蔵の大蔵流『道成寺間』の所持者として名が知られる。

26　柳川政太郎筆和泉流狂言本（一3狂言記十四番本）〔二十七〕　一冊

袋綴。235×156。薄青色地卍つなぎ（型押）模様表紙。左上に題簽を貼り、「狂言記十四番本　完」と記す。料紙は楮紙。墨付九八丁。片面九行。一丁表に所収曲目録あり。古川氏印の他、松本市の住所印あり。

《奥書》安政五戊午九月中旬写／柳川政太郎／吉真（花押）

《曲目》寝音曲・栗焼・縄綯・素袍落・隠狸・籔屑・脱殻・武悪・随方角・鬮罪人・瓜盗人・横座・子盗人・大藤内

《内容》柳川政太郎は嘉永七年の『大坂能役者記録』に和泉流役者として名が見えるが、文化三年版『乱舞人物録』にある柳川卯左衛門と関係があろう。**27**とともに大坂の和泉流のものとして珍しい。一四曲所収。

27　寺田才兵衛所持和泉流狂言本（一28寺田才兵衛本狂言六義）〔九〕　一冊

袋綴。245×174。格子模様表紙を後補。左上に題簽を貼り、「狂言六儀」と記す。本文共紙の原表紙に「本家尾陽山脇和泉傳来／浪華柳川先生直伝／狂言六儀／左海一派之宗匠／寺田才兵衛」とある。料紙は楮紙。墨付一六丁。片面一二行。奥書なし。一丁裏（原表紙見返し）に所収曲目録あり。古川

氏印あり。

《曲目》魚説法・やせまつ・かうじ・ろ蓮・舟船・膏薬煉

《内容》〈舟船〉〈膏薬煉〉は標題なし。目録にもない。〈膏薬煉〉は途中まで。「柳川先生」は柳川卯左衛門家の者であろう（**26**参照）。寺田才兵衛については未詳だが、堺在住だったのであろう。六曲所収。

28　小川七三郎所持和泉流狂言本（一5中型横本狂言本小川七三郎本）〔七〕　一冊

袋綴。124×190。薄青色表紙。中央に所収曲目録を貼付する。一丁表に所収曲目を記し、左下に「小川七三郎」とある。料紙は斐紙。墨付六〇丁。片面一五行。奥書なし。古川氏印あり。

《曲目》鍋八撥・文山賊・横座・船ふな・三人片輪・井礑・栗焼・文蔵・竹生嶋詣・富士松

《内容》小川七三郎については未詳だが、内容・詞章から見て江戸後期の和泉流の台本らしい。一〇曲所収。

29　大村政敷所持和泉流狂言本（一11和泉流狂言）〔十四ノ一～三〕　三冊

袋綴。240×168。格子縞模様表紙を後補。左上に題簽を貼り、「和泉流狂言　上（中・下）」と記す。〔上〕の本文共紙の原表紙に「和泉流狂言習之／大村政敷性」とある。料紙は楮紙。墨付〔上〕六八丁〔中〕四五丁〔下〕一九丁。片面八行。奥書なし。〔上〕の一丁裏（原表紙見返し）、〔中〕の一丁表（原表紙）に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《曲目》〔上〕不見不聞付いとも・寝音曲・素袍落・呂蓮・随方角・武悪・靱猿小哥・田植立衆・景清しころ引・黒塚・隠狸〔中〕御冷・昆布売・名取川・清水・太刀奪・千鳥・蟹山伏・魚説法・雷〔下〕靱猿・三番叟・鈴渡・鈴之段

《内容》間狂言・小舞謡・三番叟を含む。〔上〕の〈随方角〉に「大村藤五良習之」とある。〈黒塚〉と〈隠狸〉との間に落丁がある。〔下〕は〈靱猿〉と〈三番叟〉以下を合綴したもの。〈三番叟〉〈鈴之段〉はその笛唱歌。大村政敷については未詳だが、内容・詞章から見て江戸後期の和泉流の台本であろう。狂言は一七曲所収。

30　和泉流〈酢薑〉（一13仮綴狂言本すはじかみ）〔三十二〕　一冊

袋綴。246×173。ボール紙の表紙を後補。外題なし。標題「すはしかみ」。料紙は楮紙。墨付七丁。片面七～一二行。奥書なし。「元」の石田元季印、古川氏印あり。詞章から見て和泉流の台本であろう。末尾に〈柑子〉の終曲部が綴じ合わされている。

31　和泉流八十番狂言本（一25半紙本大蔵流狂言八十番）〔三〕　一冊

袋綴。234×162。薄青色表紙。左上に題簽を貼り「大蔵流狂

言八十番」と記す。内題も同じ。料紙は楮紙。墨付一〇九丁。片面一九行。奥書なし。一丁に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《曲目》末広・張章魚・目近・麻生・大黒連歌・毘沙門連歌・蛭子大黒・蛭子毘沙門・福神・松脂・筒竹筒・餅酒・厂雁金・弓矢・昆布柿・筑紫奥・佐渡狐・二人袴・鶏聟・庖丁聟・引敷聟・懐中聟・音曲聟・岡大夫・鞍馬聟・八幡前・三人長者・鍋八撥・牛馬・松楪・勝栗・松拍子・口真似聟・折紙聟・水懸聟・孫聟・船渡聟・貰聟・髭櫓・鎌腹・千切木・今神明・鈍太郎・内沙汰・因幡堂・吃・吹取・児流鏑馬・川原太郎・釣針・太鼓負・茶子塩梅・酒講式・東西離・連歌十徳・若和布・六地蔵・金津地蔵・連着・三本柱・合柿・清水座頭・川上座頭・鬼丸・牛盗人・鶏猫・蜘盗人・子盗人・才宝・鞠座頭・猿座頭・馬口労・八尾・政頼・博奕十王・鬼継子・簾目・角水聟・岩橋・梟山伏

《内容》外題・内題に「大蔵流」とあるが、所収曲・内容・詞章から見て江戸後期の和泉流の台本であろう。付箋を付して替の語リを記したりするものがある。八〇曲所収。

32　和泉流五番綴狂言本（一26半紙本大蔵流狂言）〔十五ノ一～十二〕　一二冊

袋綴。［一］～［六］は236×164、薄茶色表紙、［七］～［十二］は235×159、茶色表紙を後補。各冊中央に所収曲目録を貼付し、［一］に打付で「大蔵流　六十番拾弐冊之内」とある。［四］の裏表紙見返しに「杉本」とある。料紙は楮紙。墨付［一］三八丁［二］三八丁［三］四三丁［四］三〇丁［五］三四丁［六］三七丁［七］三五丁［八］三一丁［九］三一丁［十］二九丁［十一］二八丁［十二］三六丁。片面九行。奥書なし。［一］を除いて一丁表に所収曲目録あり。古川氏印あり。冊順は古川氏の整理による。

《曲目》［一］哥争・棒縛・不見不聞・随方角・宗八［二］伯母酒・簸屑・千鳥・清水・酢はしかみ［三］鳴子・若菜・貰聟・石神・縄綯［四］二人大名・福神・狐塚・芥川・祢宜山伏［五］通円・奈須与市語・入間川・寝音曲・三人片輪［六］朝比奈・萩大名・鞍馬参・粟田口・素袍落［七］宗論・樋の酒・吹取・伯養・冨士松［八］花盗人・茶壺・内沙汰・因幡堂・鎌腹・苞山伏［九］楽阿弥・飛越・鬼瓦・二九十八・鶏猫［十］口真似・重喜・瓜盗人・文荷・雷［十一］祐善・鍋八撥・文山賊・末広かり・法師母［十二］太刀奪・鳴子遣子・膏薬煉・悪太郎・不須

《内容》［一］の表紙に「大蔵流」と記されるが、所収曲・内容・詞章から見て、江戸後期の和泉流の台本であろう。［八］のみ六曲で六一曲所収。

33　和泉流三冊狂言本（一39水色表紙狂言十五番本）〔十三ノ一～三〕　三冊

袋綴。239×164。薄青色地卍つなぎ草花模様（型押）表紙。左上に題簽を貼り、「写本狂言記十五番本上（中・下）」と記

す。料紙は斐楮交漉紙。墨付［上］三二丁［中］三二丁［下］二八丁。片面一〇行。奥書なし。古川氏印の他、各曲冒頭に「華氏」の朱印がある。

《曲目》［上］昆布売・拄杖・名取川・内沙汰・吶り［中］米市・茶壺・鬮罪人・不阿久・松拍子［下］悪坊・伯母酒・引くゝり・岩橋・蝸牛・八句連歌

《内容》［下］の〈八句連歌〉は前後欠。内容・詞章から見て江戸後期の和泉流の台本であろう。一五曲所収。

34　和泉流十番綴狂言本（一42樗陰印十番綴狂言本）〔五十三ノ一～三〕　三冊

袋綴。235×174。渋引表紙。中央に所収曲目録を貼付する。［一］［二］の裏表紙見返し左隅に「原昌須」とあって、墨滅されている。料紙は楮紙。墨付［一］三四丁［二］四七丁［三］三七丁。片面一二行。奥書なし。古川氏印の他、［三］巻末に「樗陰之印」、「琢斎」の朱印がある。

《曲目》［一］舎弟・昆布売・酢姜・膏薬煉・芥川・伊呂波・哥争・飛越・鴈盗人・鴈礫［二］地蔵舞・宗論・骨皮・宗八・腹不立・仏師・魚説法・忠喜・竹の子・薩摩守［三］鎧・清水・咲□（口偏に花）・宝槌・宝の笠・文山賊・盆山・茶壺・太刀奪・真奪

《内容》内容・詞章から見て江戸後期の和泉流の台本であろう。三〇曲所収。

35　和泉流十五番狂言本（一24中型横本「六義」）〔十六〕　一冊

袋綴。145×193。薄茶色地格子模様表紙を後補。左上に題簽を貼り「六儀」と記す。本文共紙の原表紙に所収曲目を記し、左に「六儀」とある。料紙は楮紙。墨付五四丁。片面一六行。奥書なし。終丁裏に人名の列挙あり、中に角淵宣の名がある。古川氏印あり。

《曲目》仏師・真奪・鴈礫・鬼瓦・宗八・いなは堂・長光・井□（井の右下に点）・宗論・盆山・鶏聟・不須・飛越・飛越・なり上り

《内容》内容・詞章から見て和泉流の台本であろう。角淵宣は名古屋の狂言役者、昭和一四年没。〈飛越〉が重出するが、ほぼ同じ。一五曲所収。

36　鷺流七番狂言本（一41稽古本合綴格子表紙本）〔二十八〕　一冊

袋綴。220×165。薄茶色地格子模様表紙を後補。本文共紙の原表紙に「他見無用　太神」、〈築紫奥〉の標題下に「太神三寸三」とある。料紙は楮紙。墨付五五丁。片面八行。奥書なし。「翠蔭」の黒印、「雲根」の楕円朱印、古川氏印あり。

《曲目》築紫奥・物真似・茶壺・察化・靱猿・盆山・高砂語・膏薬煉語り・同シテ語り

《内容》間狂言・語リを含む。〈物真似・茶壷・察化〉はもと一冊、他は一番本、それらを合綴したもの。太神三寸三は未

詳だが、内容・詞章から見て江戸後期の鷺流の台本であろう。〈盆山〉に「主ノ言葉略」の注記がある。狂言は六曲所収。

37 『狂言尽三編』（一22小本狂言尽三編）〔六十〕　一冊

袋綴。180×123。薄青色地卍つなぎ模様表紙。左上に双郭の題簽を貼り「狂言尽三編狐塚全」と記す。見返しに「天保五歳甲午／新板狂言づくし／初春発売　三へん一冊」、裏表紙見返しに「狂言づくし文山賊　続編出来／天保五年甲午正月吉日／都合六冊追々出来／初編しひり　かうじ／二編鴈大名／三編狐塚／四編文山賊／五編膏薬煉／六編宗八」の広告あり、版本写の形をとる。匡郭あり（142×99）。料紙は楮紙。墨付八丁。片面九行。

《内容》一番本。一丁は「狂言装束之記」で「大橋氏直記（花押）」とする。二丁～八丁が〈狐塚〉本文で、内題に「狂言尽三編一冊／狐塚」とあり、その下に白紙が貼りつけてあるが、「大橋五嶽著」とあるのが透けて見える。この本については古川氏が「狂言記は唯一の板本か」（『能楽思潮』1、昭和33・3）に紹介されており、詞章が『狂言記』系とは違い『狂言三百番集』本に一致はしないが近いこと、版本六冊があった可能性があることを指摘されている。言われる通りで貴重なものであるが、原版本、この類の写本の存在はその後も報告されていない。なお石田元季氏「四角亭丸麿の戯作」（『紙魚』昭和2・9、『劇・近世文学論考』昭和48、至文堂刊に収録）にこの本について言及があり、大橋氏直は名古屋杉之町の人で、四角亭丸麿の名で戯作を著しており、『紀ケ崎滑稽蹇栗毛』に他の著作の広告が見えるとのことである。

二　その他狂言関係写本

1　真柄筆大蔵流間狂言本（一19中本大蔵流間六十五番）〔三十四〕　一冊

袋綴。187×149。灰色表紙。左上に題簽を貼り「大蔵流間真柄」と記す。料紙は楮紙。墨付七三丁。片面一二～一四行。一丁・二丁表に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《奥書》文政六辛未年／十月東都ニ而書写／所持真柄姓

《曲目》竹生嶋・弓八幡・白髭・難波・嵐山・舎利・国栖・東岸居士・蝉丸・大会・花月・天鼓・芦刈・小塩・小鍛冶・和布刈・西王母・感陽宮・張良・鉄輪・碪・是界・忠度・玉の井・満中・小督・山姥・野ゝ宮・七騎落・弦上・大蛇・高野物狂・橋弁慶・小袖曽我・雲林院・黒塚・藤戸・鱗形・空蝉・殺生石・小原御幸・鞍馬天狗・夜討曽我・唐船・邯鄲・はん女・藤永・双紙洗・三井寺・春栄・岩船・第六天・はせを・籠祇王・竹の雪・住吉詣・采女・雲雀山・通盛・草薙・代主・常陸帯

《内容》真柄については未詳だが、大蔵流の台本であろう。六二曲所収。

2　『大蔵流間語』（一7大型本大蔵流間語）〔三十七〕　一

冊

袋綴。280×193。渋引表紙を後補。左上に題簽を貼り「大蔵流間語」と記す。本文共紙の原表紙にも中央に同題を記す。料紙は楮紙。墨付七六丁。片面九行。奥書なし。二丁・三丁表（原一丁・二丁表）に所収曲目録あり。古川氏印の他、松本市の住所印がある。

《曲目》田村・箙・八嶋・頼政・兼平・忠度・実盛・通盛・敦盛・知章・巴・碇潜・東北・六浦・井筒・野々宮・江口・半蔀・夕顔・仏原・落葉・藤・蝴蝶・誓願寺・芭蕉・采女・定家・姥捨・檜垣・空蟬・陀羅尼落葉・葛城・梅枝・浮船・玉葛・三山・融・当麻・海人・三輪・龍田・求塚・女郎花・鉢木・松虫・船橋・鍾馗・項羽・野守

《内容》曲順を示す数が目録・本文にあるが〈八嶋〉には抜けており、目録末尾に「以上四拾八番」とある。〈八嶋〉は後補されたもの。由緒不明だが、江戸後期の大蔵流の台本であろう。四九曲所収。

3　近藤所持大蔵流間狂言本（一37近藤所持大蔵流間付）

〔三十五〕　一冊

袋綴。239×163。薄茶色地鶴（型押）模様表紙を後補。左上に題簽を貼り「大蔵流／間附　全」と記す。本文共紙の原表紙にも中央に同題を記し、左下に「近藤所持」とある。料紙は楮紙。墨付三七丁。片面一四行。奥書なし。二丁表（原一丁表）に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《曲目》雲雀山・小原御幸・鉄輪・花月・雨月・鳥追舟・鵺・西行桜・蝉丸・天鼓・須广源氏・鞍馬天狗・巻絹・安宅・七騎落・鉢木早打・殺生石・三井寺・百万・土蜘・国栖・藤渡・羅生門・楊貴妃・班女・とふる・誓願寺・満中・元服曽我・皇帝・浮舟・松虫・采女・鵜飼・弱法師・富士山・俊寛・吉野天人・草紙洗・鉢木太刀持・弦上・室君・大江山・大蛇

《内容》近藤については未詳だが、江戸後期の大蔵流の台本であろう。四四曲所収。

4　木部栄之輔筆茂山家狂言謡（一38明治二十四年木部栄之輔筆狂言謳）〔十八〕　一冊

袋綴。226×156。斜渋引表紙。中央に題簽を貼り「狂言謳地全」と記し、その右に「三冊ノ内」と朱書する。料紙は斐楮交漉紙。墨付三四丁。片面七行。一丁裏に所収曲目録あり。「紫景文庫」朱印、古川氏印あり。

《奥書》右者大蔵流茂山千作所持秘書写之／明治廿四年一月／木部栄之輔

《曲目》子の日・章魚・小弓・七ツノ子・祐善・通円・柳の下・雪山・靱猿・御田・京童・宇治晒・吉の葉・うさぎ・福の神・大黒連歌・煎し物・千鳥・附子・不聞座頭・神鳴・合せ柿・昆布売・二人大名・髭やぐら・塗師・楽阿弥・茶壺・昆布柿・海道下り・爰ハどこぞ・鍋八撥・膏薬煉・松ゆづりは・福部之神勤・比丘さだ・松竹風流・通円・法師が母・鶏

聟・業平餅切

《内容》末尾に〈蛸〉の前半部の謡を記す一葉が貼りこまれている（〈章魚〉はキリ）。小舞謡、狂言中の謡を集成したもので、もと天・地・人の三冊であったか。節付あり。木部栄之輔は未詳。千作は初代、明治一九年没の千五郎正虎か。

5　和泉流『小舞謡拾遺』（一27半紙本小舞謡拾遺）〔五十二〕　一冊

袋綴。220×148。薄青色表紙。左上に題簽を貼り「小舞謡拾遺」と記す。料紙は楮紙。墨付二九丁。片面六行。奥書なし。一丁表に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《曲目》番匠屋・小原木・瓢たん・津の国・岩飛・石河藤五郎・忍ぶ其夜・名取川・鬼丸・海老すくひ川・靱猿・業平餅・祐善・髭櫓・鉢叩・田植・蟬

《内容》詞章から見て和泉流の小舞謡の集成であろう。何に対する「拾遺」なのかは不明。節付あり、所作付も朱にてあり。〈雛売〉を記す一葉がさしはさまれているが、高浜虚子作の能〈時宗〉の間狂言の一部を小舞謡としたもので、六代野村万蔵が昭和一五年に節付している。

6　古川久筆『和泉流小舞謡』（一45古川久筆和泉流小舞謡）　一冊

ペン字写。袋綴。184×130。薄茶色表紙。中央に題簽を貼り「和泉流小舞謡」と記す。料紙は罫紙。紙数一五丁。片面一行の用紙に五～六行。

《曲目》靱猿・業平餅・祐善・髭櫓・鬼丸・鉢叩・蟬・鉢叩・雛売

《内容》〈鉢叩〉一曲めは鉢叩歌。二曲めは登場の謡。その後「昭和十二年二月稽古始／昭和十七年七月終／昭和二十七年四月再稽古始め」とあって、以下発表の覚書があり、〈雛売〉がある。古川氏が六代野村万蔵に習った折に書写したもの。節付あり。

7　山口鷺流小舞謡影写本（一12鷺流小舞影写本）〔四十〕　一冊

袋綴。245×171。白地に茶色五七の桐散し模様表紙。左上に題簽を貼り「鷺流小舞　全」と記す。扉に「鷺先生／春日先生／直伝／鷺流狂言本」とある。三巻を一冊に書写したもので、各巻に「鷺流／狂言小舞上（中・下）／中西蔵書」とある。料紙は斐紙。墨付四八丁（上一一丁、中一二丁、下二四丁）。片面六行。古川氏印あり。

《奥書》昭和十二年七月上旬山口市中西家蔵本ヲ以テ謄写シ畢ル／野々村廬舟識／右田中允君透写本ヲ借覧シ筆写了／昭和二十一年二月九日／古川久識

《曲目》［上］鶴亀・住吉・餅酒・鴈厂金・雪山若菜共・土車・小山伏・宇治晒・番匠屋・山崎通ひ・五月雨共春雨共・海道下り・七ツ子・五節句・近江下り・盃［中］松楪・国栖・住吉替・弓矢・氷室・常陸帯・道明寺・放下僧・鵜飼・

福の神・哥占・京土産［下］若松・鴈厂金替・案の山・盃・筒さゝへ・鶉舞・鎌倉上臈・柳ノ下・鐘の音・栗焼・合柿・殺生石・辛螺・蛸・蝉・鞍馬天狗・十七八・融・景清・名取川・木の葉天狗・泰山府君・藤渡・鐘馗・杉ノ木・景清居曲舞・逆髪蝉丸共・神鳴・音曲舞・鶴聟・毘沙門連歌

《内容》〈音曲舞〉は〈音曲聟〉、〈鶴聟〉は〈鶏聟〉の誤り。〈盃〉が重出するが、同文。別筆で〈博奕十王〉の謡を記す一葉がはさみこまれている。『山口鷺流狂言資料集成』（平成13、山口市教育委員会刊）によれば、山口県立大学現蔵の江山本「鷺流狂言本」に合綴された小舞の部分が原本らしく、曲名の誤りも原本のままである。さらにそれは山口県文書館現蔵の江山本「小舞」（三巻、七〇曲所収）を抄写したものらしい。五九曲所収。

8　六代野村万蔵筆〈奈須与市語〉（一34六世野村万蔵筆奈須与市語）　一冊

袋綴。250×170。黒色表紙。左上に題簽を貼り「奈須与市語　一」と記す。料紙は楮紙。墨付四丁。片面一〇行。

《奥書》六世　野村万蔵（印）

9　『狂言不審紙』影写本（一47影写本『狂言不審紙』）　四冊

袋綴。265×192。薄茶色表紙。左上に題簽を貼り「狂言不審紙　春（夏・穐・冬）」と記す。小口にも書名を記す。帙入。料紙は楮紙。墨付［春］五七丁［夏］五八丁［穐］六四丁［冬］四九丁。片面一〇行。古川氏印あり。

《内容》大蔵八右衛門虎光の伝書。狂言各曲の語彙の考証が主。能楽研究所蔵本と別筆だが、字配りまで同じ。白描の絵あり。

三　狂言記版本

1　無刊記『狂言記』巻四（二6無刊記『狂言記　巻四』）　一冊

袋綴。258×190。黒色表紙。題簽剥落。冒頭に目録あり、「狂言記巻第四　目録」とある。匡郭あり（224×168）。柱刻は上部に「狂言記四」、下部に丁付。料紙は楮紙。紙数三八丁。片面一三行。「春翠文庫」朱印、古川氏印あり。裏表紙が剥がれている。刊記はないが、印刷状態はあまりよくなく、寛文二年安田十兵衛版の後印本であろう。鴻山文庫に同体裁で、「春翠文庫」朱印のある巻三があり、江島伊兵衛氏のメモに古川氏より譲り受けたものとある。

2　元禄版『狂言記』（二5元禄十二年野田・八尾・野田刊「絵入狂言記」〔十九ノ一～三〕　三冊

袋綴。106×161。朱色表紙。左上に双郭の題簽を貼り「絵入狂言記　一（二・三）」とある。中央に所収曲目録を貼付するが、字は読めない。各巻冒頭に目録あり、「狂言記巻第一目録」のごとくある。匡郭あり（92×149）。柱刻は上部に

「狂言一」のごとくあり、下部に丁付。料紙は楮紙。五巻を一冊に仕立て、〔一〕に巻一、〔二〕に巻二・三、〔三〕に巻四・五を収める。紙数〔一〕三一丁〔二〕六〇丁〔三〕六九丁。片面一九行。裏表紙見返しに「摂陽四ツ岸／清見庵□（科に重）秀□（ウ冠に成）」とある。「紫景文庫」朱印、古川氏印あり。

《刊記》元禄十二年巳卯霜月吉日／寺町通二条下／野田弥兵衛／堀川六角下／八尾平兵衛／江戸通石町／野田重兵衛

3　寛文五年版『狂言記』上巻零本（二1寛文五年版狂言記零本）〔四十六〕　一冊

袋綴。黄土色表紙。227×160。左上に題簽を貼り「一狂言記二」と墨書。匡郭あり（180×126）。柱刻は上部に「□（言偏に王）言上」、下部に丁付。料紙は楮紙。紙数一五丁。片面一〇行。寛文五年板木源左衛門版の後印本で、上下二巻を五巻に仕立てたものの二冊めらしく、〈薩摩守〉の途中、丁付の二五丁から始まり、〈ぶんざう〉〈太刀はい〉を収め、冊九丁まで。古川氏印あり。

4　『狂言記外五十番』（二2元禄十三年刊「狂言記　外五十番」）〔二十二ノ一～五〕　五冊

巻一は影写本。袋綴。226×163。巻一は黒色、他は藍色表紙。左上に双郭の題簽を貼り「新板絵入狂言記外五十番一（～五）」とある。各巻冒頭に目録あり「狂言記外巻一　目録衣裳付」のごとく記す。匡郭あり（一180×140、他179×142）。柱刻は上部に「狂言記」とあり、下部に丁付。料紙は楮紙。紙数〔一〕二九丁〔二〕二六丁〔三〕二八丁〔四〕二七丁〔五〕二七丁。片面一一行。巻四の絵に彩色が施されている。「紫景文庫」朱印、古川氏印あり。

《刊記》元禄十三庚辰五月吉日／京寺町通二条下ル町／野田弥兵衛／大坂北御堂前／毛利田庄太郎／江戸石町拾軒店／野田重兵衛

5　元禄十三年版『続狂言記』（二3元禄十三年山形屋・八尾刊「続狂言記」）〔二十〕　一冊

袋綴。108×158。藍色表紙。左上に題簽を貼り「絵入続狂言記　一」とある。五巻を合綴したもので、各巻冒頭に目録あり、「続狂言記巻第一　目録」のごとくある。匡郭あり（88×141）。柱刻は上部に「狂言記一」のごとくあり、下部に丁付。料紙は楮紙。紙数一七八丁。片面一八行。各巻の冒頭に「紫景文庫」朱印、古川氏印、終丁に「小画之璽」の黒印、冒頭と終丁に「昆陽和泉／萬国書物所／梧鳳軒印」の黒印がある。

《刊記》元禄十三年／辰九月吉日／江戸通本石町／山形屋吉兵衛／京掘河／八尾平兵衛

6　菱屋版『狂言記拾遺』（二4享保十五年菱屋刊「狂言記拾遺」）〔二十一ノ一～五〕　五冊

袋綴。109×160。巻一・四は草花松葉散し、巻二は麻の葉つなぎ、巻三・五は桜花散し模様の表紙。左上に題簽を貼り「絵入狂言記拾遺　一（～五）」とある。各巻冒頭に目録あり、「狂言記拾遺巻第一　目録」のごとくある。匡郭あり（89×141）。柱刻は上部に「拾遺一巻」のごとくあり、下部に丁付。料紙は楮紙。紙数［一］四二丁［二］三四丁［三］三五丁［四］三七丁［五］三六丁。片面一八行。［二］の見返しに「中村所物」他落書、裏表紙にも「中村氏」とあり、［三］の裏表紙に「元□（欠損）王子町／疋田清二朗／持用」とある。「紫景文庫」朱印、古川氏印あり。菱屋版で、享保十五年、野田弥兵衛・野田太兵衛刊の再摺本。

《刊記》享保十五庚戌年極月吉日／京寺町通松原上ル町／菱屋治兵衛

7　『狂言記』揃六冊本二・四（二7無刊記「絵入狂言記」四・五、二8無刊記「続狂言記」四・五）　二冊

袋綴。125×185。黄色卍つなぎ（型押）模様表紙。匡郭あり（二91×146、四89×139）。料紙は楮紙。［二］に「狂言記」の巻四・五、［四］に「続狂言記」の巻四・五を収める。紙数［二］六九丁［四］七七丁。片面一九行。嘉永二年刊揃六冊本の内の二冊であろう。

四　間狂言版本

1　「間之本」巻上（二9江戸初期刊「間之本　上」）〔五十八〕　一冊

袋綴。197×135。藍色表紙。外題なし。匡郭あり（167×123）。柱刻は「上　一」のごとくある。料紙は楮紙。紙数五七丁。片面八行。古川氏印あり。

《曲目》高さこ・うのは・なには・はく楽天・ゆみやはた・よし野静・おいまつ・ちくふしま・かすか龍神・玉嶋川・ひむろ・やうらう・あらし山・くれは・志賀・かんたん・やたてかも・をしほ・たうせん・あま・ふなはし・松むし・夕かほ・かねひら・のゝみや・さほ山

《内容》鴻山文庫蔵「正保四年版後印「間の本」」の上巻と同版。ただし巻尾の〈江口〉を削った後刷本。二六曲所収。

2　「間仕舞付」巻一・三・四（二10貞享三年刊横型間狂言本）　一冊

袋綴。110×161。藍色表紙。左上に打付で「きようけん」と墨書。料紙は楮紙。貞享三年刊の『間仕舞付』の巻一脇間、巻三葛間、巻四順間を合綴したもので、各巻の目録丁のみ匡郭あり（92×145）。紙数一一〇丁。片面一三行。巻末に巻五にある刊記を墨書、その左に「泉州和□（難読）泉郡／松尾寺村久□（難読）／惣治良」とある。巻一と巻三の間に白紙をはさみ、「明治元年五月調之／坂井姓（印）」とある。所収曲目は省略。

《刊記》貞享三年九月／田中庄兵衛／山本又兵衛／板

五　照葉狂言版本

照葉（てりは）狂言は能・狂言を翻案した芸能で、江戸末期から明治にかけて流行し、その台本が版行された。古川氏は「照葉狂言の文献」（『宝生』昭和36・7～9、『狂言の研究（増補三版）』昭和42、福村出版に収録）で所蔵本に鴻山文庫蔵本を加えて考察されており、原論文には**1****2****3****5**の表紙、**4**の見返しの写真も掲載されている。

1　**『てりはにわか初編』**（二14）〔六十一〕　一冊

袋綴。178×118。表紙に三番叟の上半身を描く。上部に「てりはにわか」と外題があり、その左下に「初編」とある。見返しに「照波日和嘉　狂言尽　初編」とある。匡郭あり（140×96）。料紙は斐楮交漉紙。紙数二〇丁。片面一〇行。裏表紙見返しに「てりはにわか／淀川老人作／狂言つくし／初二三編／追々出板仕候」の広告がある。

《刊記》京都東洞院二条上ル　田中屋治助／大坂心斎橋通安土町南河内屋和助／同北久太郎町四丁目　河内屋清七

《曲目》末広・花盗人・隠し狸・蝸牛・釣狐・入間川・業平もち・福の神・千鳥

《内容》一丁表に「倉椀家のおきな述」の序あり、裏に番組の形で所収曲目録がある。各曲に色刷の一図あり。古川氏はこれを甲類とし「大阪生れの俄の一変型に外ならぬもの」とされた。**2**と一連のもので、安政二年頃の刊か。

2　**『照波俄狂言初編』**（二15）〔六十二〕　一冊

袋綴。170×116。表紙に〈末広〉の果報者と後から傘をさしかける太郎冠者とを描く。右に「照波俄狂言初編」の外題があり、その下に「大阪綿屋喜兵衛板」とある。見返しに「照波俄狂言　浪花金華堂梓」とある。匡郭あり（138×98）。料紙は斐楮交漉紙。紙数四五丁。片面一〇行。

《刊記》書物画草紙問屋／大坂北ほり江市場／綿屋徳太郎版／心才ばし塩町角／綿屋喜兵衛板

《曲目》末広・花盗人・隠し狸・蝸牛・釣狐・入間川・業平もち・福の神・千鳥・寿三番叟・止動方角・三人聟・宗論・うぐひす・水掛聟・鞦猿

《内容》一丁表裏は**1**に同じ。二丁表に「凡例序」があり、「安政二卯とし夏の日　一花堂述」とある。裏に番組の形で後半分の所収曲目録がある。三丁から**1**と同じ本文があり、次に後半分・前半分の順で所収曲目録があって、本文が始まる。各曲に墨印の一図がある。**1**とその続編とを合綴したもののようで、古川氏はこれも甲類とされている。

3　**『手尓葉狂言俄二編』**（二11）〔四十三〕　一冊

袋綴。176×114。表紙に三番叟の上半身を描く。上部に「手尓葉狂言俄二編」とある。匡郭あり（155×98）。料紙は斐楮交漉紙。紙数一九丁。片面八行。

《刊記》書林／江戸福井町三丁目　山崎屋清七／尾州名古屋十一丁目　金網屋米蔵／京都寺町三条上ル　大文字屋与三兵

衛／大阪長堀橋南詰東　北国屋豊助／同平野町淀屋橋西江入
石川屋和助
《曲目》昆布柿・不聞座頭・舎弟・雷り
《内容》一丁表に序（署名なし）、裏に「照葉連」の連名があり、番組の形で所収曲目録がある。各曲に墨印の一図がある。古川氏はこれも甲類とされている。安政二年をあまり下がらない頃の刊か。

4　**『都風流照葉狂言尽』**（二13）〔四十二ノ一・二〕　二冊
袋綴。170×115。表紙に揚幕を描く。「都風流／照葉狂言尽」の外題があり、その下に朱で［一］に「三人片輪」、［二］に「木六駄／呂蓮坊」とある。見返しに「一夜案／休作／ゑらみ／浪華／金花堂梓」とある。匡郭あり（142×95）。料紙は斐楮交漉紙。紙数［一］八丁［二］六丁。片面一〇行。
《曲目》［一］三人かた輪［二］呂蓮坊
《内容》［一］の一丁表に座頭の出、中に舞台図が色刷である。［二］の一丁表に「華洛方高尾廼錦浪花津示写備而己一夜案」とあり、一丁裏・二丁表に舞台図が色刷である。表紙には〈木六駄〉も記されるが、本文はない。この類は鴻山文庫に他に六冊あり、古川氏はこれを丁類とし「諸類中最も狂言本行に即し」たものとされている。

5　**『照葉狂言杓子定木後編』**（二12）〔四十四〕　一冊
袋綴。175×121。表紙に〈靱猿〉の舞台図を描く。中央に「照葉狂言杓子定木後編」、右に「明治十六年十月出板／編輯中井恒次郎」、左に「出板人　京都狂言堂田中」とある。料紙は斐楮交漉紙。紙数三八丁。片面八行。古川氏印あり。
《刊記》明治十六年九月廿四日出版御届同年十月十五日刻成発売　定価廿五銭／編輯人　京都府平民中井恒次郎／下京区第五組高宮町一番戸／出版人　京都府平民田中常三郎／下京区第五組大文字町十八番戸
《曲目》靱猿・二九十八・腰祈・抜がら・三人片輪・薩广守
《内容》一丁表に「編者述」の序、一丁裏・二丁表に稽古風景図、二丁裏に山伏の出の絵がある。編者名も記されるが、これは実は江戸末期刊の『風流照葉狂言集』三編を仕立て直したもの。なお『照葉狂言杓子定木初編』は鴻山文庫等にあるが、『風流照葉狂言集』初編・二編を合綴したものである。古川氏はこれを丙類とし「単なる余興から脱しようとする気配も見える」ものとされている。なお初編・後編を合せ、国会図書館蔵本によって、根岸理子氏「翻刻『照葉狂言杓子定木』」（『歌舞伎研究と批評』24、平成11・12）に翻刻されている。

六　その他狂言関係

1　**『新撰猿楽狂言独習』**第一集（二23）〔四十一〕　一冊
松本正造著。明治三〇年、清水正文堂刊。

2　**『狂言全集』**（二24）　三冊
幸田露伴編。明治三六年、博文堂刊。

3 『狂言二十番』（二25）　一冊
芳賀矢一編。明治四五年（五版）、冨山房刊。

4 『新訳狂言記』（ナシ）　一冊
佐久間春山著。大正八年、日本書院刊。

5 藤江又喜本（二22）〔六十四〕　一冊
謄写刷。大正一五年、藤江又喜刊。
《曲目》水掛聟・舎弟・田植・太刀奪・金津地蔵

6 『狂言五十番』（ナシ）　一冊
名著文庫。芳賀矢一校訂。大正一五年、冨山房刊。一冊。

7 『狂言百番』上（二26）　一冊
斎藤香村編。昭和二年、能楽書院刊。

8 『狂言正本』一番綴本（二16大正～昭和わんや刊和泉流一番本）〔五十ノ一～二十五〕二五冊
野村萬斎編。昭和三年、わんや書店刊。

9 盛岡狂言会版和泉流狂言七番（二17盛岡狂言会刊狂言本）〔五十一〕　一冊
刊本。一番本の合綴。各曲の裏表紙に「盛岡狂言会発行」とある。鴻山文庫に〈棒縛〉一冊があり、外題に「野村萬斎編、千葉常樹筆、大正刊」とある。千葉常樹は盛岡在住、昭和二五年没、六六歳。『南部藩能楽史』（昭和三一年、盛岡宝生会）に付された年譜によれば、大正五年以来、野村萬斎を招いて稽古し、十二年冬から翌春にかけて萬斎は盛岡に「滞留」、「同好者と狂言を稽古す」とある。その頃の発行か。
《曲目》芥川・蟹山伏・不聞座頭・蝸牛・磁石・寝音曲・棒縛

10 『大蔵虎清狂言八番』（二19）〔三十〕　一冊
謄写刷。『椎園』第一輯（昭和12・1）所載による。

11 『大蔵虎寛本能狂言』（二31）　三冊
岩波文庫。笹野堅校訂。昭和一七～二〇年、岩波書店刊。

12 『大蔵虎明本古本能狂言三十番』（二20）　二冊
謄写刷。京都大学中世文学研究会編。刊年不明。三二曲抄出。

13 『和泉流狂言集』（ナシ）　二〇冊
古典文庫。吉田幸一編。昭和二八～三七年刊。

14 『寛文二年版狂言記』（二21）　一冊
謄写刷。昭和三七年、東京大学国語研究室刊。

15 『改訂謡曲狂言新撰』（二39）　一冊
古川久著。昭和四九年（一六版）、武蔵野書院刊。

16 『能・狂言名作集』（二35）　一冊
古典日本文学全集。横道萬里雄・古川久著。昭和六〇年、フランクリン・ライブラリー刊（特製本）。

17 『和泉流小舞謡』（二18）〔四十九〕　一冊
山脇元清編。明治三四年、江島伊兵衛刊。

18 『改訂小舞謡』（二27）〔五十五〕　一冊
和泉保之編。昭和二四年、わんや書店刊。

19 『改訂小舞謡』再版（二28）　一冊
和泉保之編。昭和三一年（再版）、わんや書店刊。

20 『狂言不審紙』（二30）　一冊

改造文庫。笹野堅編。昭和一二年、改造社刊。

21　**『わらんべ草』**（二32）　一冊

岩波文庫。笹野堅校訂。昭和三八年、岩波書店刊。

22　**『狂言十番』**（ナシ）　一冊

周作人訳。一九二六年、北新書局（北京・上海）刊。**23**と合せ、古川氏「周氏訳の「狂言十番」と「日本狂言選」」（『狂言』6、昭和31・5、『くちなしの花』昭和44に収録）に紹介がある。

23　**『日本狂言選』**（ナシ）　一冊

周啓明訳。一九五五年、人民文学出版社刊。

24　**"Selected Plays of Kyogen"**（二44）　一冊

Richard N. McKinnon 著。一九六八年刊。

25　**『狂言の見かたと聞方』**（二29）　一冊

山辺円阿著。昭和二年、吉田謡曲書店刊。

26　**『能狂言と素人演劇　膏薬煉』**（ナシ）　一冊

村崎敏郎・山本東次郎著。昭和一九年、国民図書刊行会刊。

27　**『太郎冠者行状』**（ナシ）　一冊

日本叢書。野上豊一郎著。昭和二一年、生活社刊。

28　**『狂言と川柳・狂句』**（二41）　一冊

謄写刷。武藤禎夫著。刊年不明。

29　**野村万蔵家『狂言』二～三八号**（二36）

昭和二九～五〇年。合綴二冊。三四・三五号欠。

30　**「白木狂言会」番組**（二34）　合綴五冊

昭和三〇～三八年。

31　**名古屋狂言共同社『狂言』一～一八八号**（二37）　合綴一冊

昭和三一～五二年。一三八・一三九号欠。

32　**名古屋狂言共同社『狂言』一〇〇号記念特集号**（二38）　一冊

昭和四二年。

33　**『万水会報』一～五一号**（ナシ）　合綴一冊

昭和三二～五二年。

34　**野村狂言の会パンフレット一～二三・三三号**（二42）

袋入。昭和四〇～四五・四八年。一九号欠。

35　**『絵入狂言記』校正刷**（二33）　一冊

古川久著。新日本図書（大阪市）刊の新日本文庫〈第一期〉に収載予定の書の校正刷。未刊行。寛文五年版『狂言記』を本文とし、頭注を加える。朱字校正済。昭和二三年の奥付がある。

36　**狂言名寄各種**（ナシ）

袋入。山脇元康「和泉流狂言名寄並びに位附」（『謡曲界』昭和7・1）、中村桃山編「大蔵流狂言名寄一覧」（『観世』昭和9・8）、小川寿一校訂「和泉流狂言目録／和泉流狂言名附」（『国漢研究』昭和10）、「文久元年直英名寄」（昭和22、万蔵家蔵本謄写）、山脇元清「諸流対照和泉流名寄一覧」（明治35、椀屋江島刊）、鷺畔翁「鷺流狂言一覧」（大正刊）、茂山忠三郎良豊「大蔵流狂言名寄一覧」（明治33）、同（昭和10改版）、大蔵弥太郎「大蔵流狂言名寄一覧」（昭和35）、「諸流

狂言名寄集」（昭和5、江島刊）、『謡曲界』昭和17年7月号（三宅藤九郎「和泉流間の分類」所載）、山崎楽堂「間狂言の役柄分類（本編）」（『謡曲界』大正14・4）。

37 『謡曲狂言新撰』凸版下絵（二40）　四八枚

袋入。松野奏風絵。15の挿絵に用いられたもの。

38 石田元季「名古屋の能狂言について」（ナシ）

『無閑之』昭和一三年一・二月号所載の論文の合綴。『劇・近世文学論考』（前掲）に収録されている。

39 「狂言曲目表」（二45）　三冊。

古川久作成。ノート。

七　能関係写本

1 室町末期筆観世流謡本〈木賊〉（三1）　一冊

袋綴。146×153。薄茶色表紙。外題なし。料紙は楮紙。墨付一五丁。片面八行。

《奥書》主伊王野薩摩守／戊子九月五日　永権（花押）

《内容》上部に破損があり、奥書に書かれていたらしい年号も欠けているが、室町末期の観世流謡本であろう。節付あり。

2 慶長頃筆上掛り謡本（三2）　一冊

袋綴。140×158。表紙欠。料紙は楮紙。墨付三二丁。片面七行。

《曲目》仏原・鵺（偏は空）・桜川

《内容》一丁は「そのさうたうには」から始まっており、〈仏原〉の冒頭一丁が欠けているらしい。〈鵺〉〈桜川〉の標題は前曲の終丁の左端に記されており、一番本を合綴したものらしい。最終丁は〈桜川〉の曲末までの三行で切れている。慶長頃の上掛り謡本であろう。

3 下掛り十九番謡本『謡曲狂言之書』（三3）〔三十六〕

一冊

袋綴。157×240。藍色地卍つなぎ草花（型押）模様表紙。左上に題簽を貼り「謡曲狂言之書」とある。料紙は楮紙。墨付一五七丁。片面一三行。古川氏印あり。

《奥書》門膳也／太田善七

《曲目》松虫・俊成・仏原・松山鏡・昭君・絵馬・舞車・逆髪・小鍛冶・愛寿・草紙洗・空腹・元服曽我・碪・大社・望月・花形見・大盤若・身売

《内容》目録あり。〈逆髪〉以下、本文中に標題なし。終丁に〈舎利〉の一節を一行記し、奥書がある。太田善七は所持者か。下掛り謡本であろう。珍しい曲が多い。

4 直信署名観世流謡本〈通小町〉（三4）　一冊

袋綴。191×152。黄土色表紙。外題なし。料紙は楮紙。墨付七丁。片面七行。不明円黒印あり。

《奥書》直信（花押）

《内容》冒頭部に破損あり。扉に曲名が記されていたらしいが「通」の「マ」と「町」が読み取れる。直信は未詳だが、

観世流の謡本。

5　正徳年間筆下掛り曲舞（三5）　一冊

袋綴。160×154。朱色表紙。中央に題簽を貼り「曲舞」と記す。料紙は楮紙。墨付六六丁。片面八行。冒頭に所収曲目録あり。古川氏印あり。

《奥書》正徳年中ニ／和刕大木村住人／森本宗左書之／深見桂庵／明和八卯冬永原村諷之

《曲目》雲林院・六浦・遊行柳・小塩・二人妓王・鸚鵡小町・露・夕顔・浮舟・定家・経正・俊成忠度・碇潜・烏帽子折・木曽願状・錦戸・勧進帳・春栄・錦木・元服曽我・小袖曽我・夜討曽我・弱法師・東国下・西国下・人磨・兵揃・更科物狂・伊呂波・徒然・一枚起請・基（目録は碁）・恋草・仝・八重桜・丹後物狂・蝉丸・望月・高野物狂・長谷

《内容》目録で〈遊行柳〉は「遊行桜」と誤る。末尾に〈小督〉〈卒都婆小町〉の曲名があり、そこにその一節を記すが、本文にはない。本文末の〈高野物狂〉〈長谷〉は目録にはない。

6　幸流小鼓手付（三6中型横本小鼓手付）　一冊

袋綴。130×187。黄色表紙。外題なし。小口に「鼓手配」とある。料紙は斐楮交漉紙。墨付三一丁。片面七～九行。奥書なし。「元」の石田元季朱印あり。

《曲目》序舞・中之舞・カケリ・男舞・盛久・猩々・序舞・一声半コシ・一声本越・早笛・舞ハタラキ・次第・出羽・神舞・早舞・カツコ・男舞・鵜之段・観世流序之舞・山姥・出羽・海人早舞・駒之段・道行・早笛・舞働・出羽カサス・一声本越・次第・神舞・早舞・カツコ・一声頭越・楽・太鼓なし楽・男舞・序舞・ハノ舞

7　石井流大鼓手付（三7小型横本小鼓手付）　一冊

袋綴。110×199。黄土色表紙。外題なし。料紙は斐楮交漉紙。墨付二二丁。片面七行。奥書なし。「元」の石田元季朱印あり。

《曲目》序之舞・太鼓序之舞・破ノ舞・男舞・早笛・カツコ・太鼓カケリ・太鼓楽・神舞・神楽・太鼓中ノ舞・出端越・中ノ舞・早舞・善知鳥カケリ・天女之舞・サカリハ

8　笛唱歌（三8小型横本笛唱歌）　一冊

袋綴。121×184。黄土色表紙。外題なし。料紙は楮紙。墨付一八丁。片面八行。奥書なし。「元」の石田元季朱印あり。

《曲目》序舞・中舞・男舞・神舞・早舞・鞨鼓・カケリ

《内容》森田流か。

9　岩倉具綱筆横本『能楽目録』（三9）　一冊

袋綴。129×189。淡緑色布表紙。左上に題簽を貼り「能楽目録」と記す。料紙は斐紙。墨付九二丁。片面九行。終丁に坂元雪鳥の識語あり、岩倉具視の子息具綱の筆で、その子息具

徳より昭和七年一月一〇日に譲られたものとある。

《内容》能・囃子・仕舞・習事・狂言の諸流の名寄集。能については曲目ごとにシテ・ワキの所演流派を記し、異曲名等を注記する。狂言については鷺仁右衛門・大蔵弥太郎・鷺伝右衛門・大蔵八右衛門の名寄と諸流の替間の名寄。一丁に「朱点ハ明治十五年以後再興之分書加了」とあり。明治以後新作の〈楠露・桜井・大和詣・重盛〉を記す紙を貼る。

10　八帖本花伝書（三10）　二冊

袋綴。237×157。薄青色波形（艶出）模様表紙。左上に銀粉を散らした題簽を貼り「花傳　上（下）」と記す。料紙は楮紙。墨付［上］八六丁［下］七八丁。片面一二行。「南部蔵書」の朱印、古川氏印あり。［上］に巻一～四、五の81項まで、［下］に五の残り、六～八を収める。

11　江戸後期筆「能礼式作法・舞楽秘曲」（三11江戸中期筆　中型横本　能礼式作法）　一冊

袋綴。青色表紙。150×208。左上に題簽を貼るが、外題は記されていない。料紙は斐楮交漉紙。墨付四〇丁。片面一五行。奥書なし。

《内容》「能礼式作法」「舞楽秘曲」「御国許風流開口文」を収める。「能礼式作法」は**四2**「間仕舞付」に本来付される「能礼式作法記」の写し。間狂言の心得等、一つ書一〇箇条。「舞楽秘曲」は元禄一〇年刊の能の解説書『能之図式』の写し。ただし図は除かれている。その後に文久元年に江戸寺社奉行青山大膳に「御家御旧例開口風流」について答えたむねの記事があり、「御国許風流開口文」を載せる。

12　万延元年筆『能之作物図』（三12）　一冊

袋綴。154×122。水色表紙。左上に双廓の題簽を貼り「能之作物□（欠損、「ず」の振り仮名が残る）」と記す。料紙は楮紙。墨付三〇丁。「汲月亭蔵書」朱印、古川氏の松本市の住所印あり。

《奥書》萬延元年／庚申十一月日／中岡鉄治郎

《内容》［能面図］翁面他。白描、使用曲名を付記。［小道具図］笛他楽器図・黒風折他小道具図。白描。［作物図］高砂・賀茂・和布刈・小督・西行桜・千引・橘・邯鄲・定家・殺生石・呉服・羽衣・舎利・遊屋・関寺小町・道成寺・江口・紅葉狩・夕顔・野々宮・鉄輪・葵上・三輪・石橋・猩々・雲雀山・籠太鼓・小鍛冶・芦苅・玉之井・黒塚・白髭・嵐山・鵜之羽・富士太鼓・羅生門・道明寺・唐船・鸚鵡小町・三井寺。彩色を施す。寸法を付記するものあり。

八　能関係版本

1　寛永一〇年刊者不明五番綴謡本（三13）　一冊

袋綴。145×111。茶色表紙。匡郭なし。字高120。料紙は楮紙。紙数五三丁。片面六行。古川氏印あり。

《刊記》右百番謡本観世／左近大夫章句以／有之令開板者也

／寛永十年／三月吉日
《曲目》白髭・篭太鼓・箱崎・道成寺・善知鳥
《内容》標題なし。

2　貞享三年刊番外謡三百番本（三14）　一八冊。
袋綴。158×112。布目地薄茶色表紙。中央に題簽を貼り、所収曲目を記す。匡郭なし。字高120。巻二・十一欠。貞享三年、林和泉掾刊。『鴻山文庫蔵能楽資料解題』五217参照。

3　貞享四年山本長兵衛刊『乱曲曲舞要集』（三15）　二冊
袋綴。230×165。布目地薄茶色表紙。左上に題簽を貼り「乱曲久世舞要集上（下）」とある。匡郭なし。字高175。「竹中」円印、古川氏印あり。貞享四年、山本長兵衛刊。『鴻山文庫蔵能楽資料解題』一〇43参照。

4　元禄二年刊番外謡四百番本巻二（三14）　一冊。
袋綴。158×112。布目地薄茶色表紙。匡郭なし。字高120。巻二のみ。2の欠を補おうとしたものらしく、題簽には「十一」と巻数を記す。元禄二年、林和泉掾刊。『鴻山文庫蔵能楽資料解題』五223参照。

九　その他能関係

1　『謡曲五十番』（三26）　一冊
芳賀矢一校訂。大正一五年、冨山房刊。

2　〈松浦の能〉能本（三27）　一冊
昭和三年、古典保存会刊。世阿弥自筆本の複製。

3　〈奥の細道〉謡本（三32）　一冊
昭和一八年、わんや書店刊。高浜虚子新作。

4　〈面塚〉謡本（三28）　一冊
昭和四〇年、檜書店刊。浅見真健新作。

5　〈夢跡一紙〉謡本（三30）　一冊
昭和四五年刊。鎗居順節付。

6　〈雪女〉謡本（三29）　一冊
昭和四六年、室山源三郎刊。

7　『番外謡曲（角淵本）』（三44）　二冊
古典文庫。田中允編。昭和二五・二七年刊。

8　『未刊謡曲集』（三43）　三一冊
古典文庫。田中允編。昭和三八～五五年刊。

9　『能楽蘊奥集』（三19）　六冊
明治二三年刊。木下敬賢刊。

10　『笑謡』（三18）　一冊
明治三一年、檜常之助刊。

11　『謡曲玉淵集』（三17）　一冊
明治三二年、江島伊兵衛刊。

12　『謡曲手引八拍子』（三22）　三冊
明治三三年、江島伊兵衛刊。

13　『花伝書』（三16）　一冊
明治三五年（訂正再版）、江島伊兵衛刊。

14 『謡曲拍子初歩』（三23）　一冊
大倉六蔵著。明治三六年、江島伊兵衛刊。

15 『金春家能面之巻』（三47）　一冊
明治四一年、辻本朝治郎刊。

16 『葛野流大つづみ手附』（三20）　一冊
大正四年、わんや刊。

17 『風流謡年代記』（三24）　一冊
大正六年、稀書複製会刊。宝暦七年刊本の複製。

18 『謡曲ことば鑑』（三21）　一冊
羽室蒼治・森本常吉編。大正七年、日本学術普及会刊。

19 『鼓筒図譜』（三25）　一冊
鼓筒研究会著。大正七年、能楽編輯所刊。

20 『謡曲と狂言』（三34）　一冊
坂元雪鳥編。昭和二年、能楽書院刊。

21 『謡曲狂言曲名一覧』（三25）　一冊
日本放送協会編。昭和一〇年刊。

22 「謡曲作者考」（三26）　一冊
能勢朝次著。『観世』昭和一〇年一一月号分冊。

23 『私の能舞台』（ナシ）　一冊
松野奏風著。昭和一七年（再版）、謡曲界発行所刊。

24 『車屋本の研究』（ナシ）
江島伊兵衛著。昭和一九年、鴻山文庫刊。一冊。

25 『能』（三38）　一冊
「アルスグラフ」11集。昭和二八年、アルス刊。

26 『能百句』（三50）　一冊
野上豊一郎著。昭和三一年刊。私家版。

27 "PREMIERE SAISON DU THEATRE DES NATIONS (SEMAINE JAPONAISE)"（三39）　一冊
SARAH BERNHARDI著。一九五七年刊。

28 『黒川能史料』（三40）　一冊
昭和三四年、櫛引町教育委員会刊。

29 "SHUDOUSHO・KYAKURAIKWA"（三49）　一冊
HERMANN BOHNER著。一九六一年刊。

30 『佐渡と世阿弥』（ナシ）　一冊
昭和三八年、正法寺刊。

31 『能に見る日本の芸術』（三41）　一冊
三宅杭一著。昭和四二年、通信教育振興会刊。

32 『能芸文化史』（三42）　一冊
富岡伸吉著。昭和四七年、芸能研究会刊。

33 『江島伊兵衛氏喜寿祝賀記念帖』（三31）　一冊
昭和四七年、法政大学能楽研究所発行。

34 『能面』（三48）　一冊
「平凡社ギャラリー」一七。昭和四九年、平凡社刊。

35 『観照』四～七・一七・二二・二四号（ナシ）　合綴一冊
昭和二一～二四年。

36 『能楽タイムズ』一～三〇〇号（三45）　合綴三冊
昭和二七～五二年。

37 **『梅若』一～一五号**（三46）　合綴一冊
昭和三七～四〇年。

38 **『池内信嘉先生・高濱虚子先生・高濱年尾先生を偲ぶ会』パンフレット**（三33）　一冊
昭和五六年。3と同袋。

39 **「四座役者目録」合綴本**（三51）　一冊
『観世』掲載の抜刷を綴じたもの。

40 **「梅若実年譜考」カード**（三52）
袋入。古川久作成。

十　その他写本

1 **『拾遺枕草紙花街抄』**（四1）　一冊
洒落本。

2 **『色里三所世帯』**（四3）　三冊
井原西鶴作浮世草子。

3 **石田元季手抄本**（四2）　一一冊
帙入。石田氏が写本・版本類を書写したもので、浮世草子、洒落本、艶本の類が多い。書籍に関するメモや序・目録のみの抄写もあり、それらは「雑録」とする。［一］の「無名草子」は佚名の仮名草子で、平の中将何がしと小野の宮の姫君の恋物語。「元和元年卯五月中旬／源直元書之」の奥書がある本を「洛東山の麓にすむ何がしが難波のふみ商人より得られたるものにて借覧の序一本を写しとゝむるものなり」とある。《内容》［一］無名草子・好色若えびす・手挿初花・雑録・年のなゝふ［二］婚礼秘事袋・古今好色男下・里鶴風語・三味線十二調子・金勢霊夢傳［三］新吉原つね〳〵草・天狗内裏・元のもくあみ物語［四］催情記・よし原六方・陽台遺編・□（女偏に壮）閣秘言・役者評判記目録・柳亭種彦翁俳書文庫［五］当流百番開合仮名遣鈔・岩塚駅田祭・任價仏発沽・雑録・儛意鈔・一月家訓・示舎弟及門生等書・小寺玉晁著述目録・同蔵書目録抄・俳書古集目録・四角亭丸麿戯作目・廣川先生著目・雑録・窓の枝折・雑録［六］石平道人行業記弁疑・石平家法・草庵家訓前、後、遺志・胆大小心録・也有書翰抄・諷そめ抄・也有翁送文・石井垂穂著述目録［七］色羽二重・好色旅日記巻三、巻四・御所絵ぬりかさ抄・伊豆国熱海温泉縁起・ぶんぶくちやがま・吉原たんか・切支丹懺悔録・雑録［八］渡世傳授車巻四・竹亭物語・菱川月次のあそひ・解顎新話・下之目録道化之巻・后宮名目抄・初心重宝色道智恵潤・男色山路の露・観世流謡心得歌百十九首［九］誹風末摘花［十］静海奇談・傾城千尋の底抄・愛経Kama Sutra抄・源平精水記［付］『名家秘蔵書目集』（昭和一四年、古典社刊）

十一　その他版本

1 **『広益書籍目録』巻四・五**（四4）　二冊
元禄五年、八尾市兵衛他刊。

2 **『竜宝山大徳禅寺世譜』『紫巌印章花押譜』**（四5）　二冊

帙入。安政二年刊。古筆了仲蔵版。

3 『七十一番職人歌合』（四6）　三冊
刊年・刊者不明。

4 『殿居嚢（武家必擥）』（四7）　一冊
大野広城著。天保八年、訂書堂刊。武家故実書。

5 『殿居嚢後編』（四8）　一冊
大野広城著。天保一〇年、訂書堂刊。武家故実書。

6 『青標帋（武家必冊）』（四9）　一冊
大野広城著。天保一一年、忍廼屋刊。武家故実書。

7 『都仁志喜』（四10）　一冊
慶応元年、闡教館刊。公家名鑑。

8 『江戸近郊図』（四11）　折畳み一枚
刊年・刊者不明。

十二　その他

1 『艶麗文粋』（四18）　一冊
明治三一年、文学同志会刊。

2 『増訂古画備考』（四12）　一九冊
明治三六～三八年、弘文館刊。

3 『舞の本』（四19）　一冊
上田万年校訂。大正一五年、冨山房刊。

4 『青木健作短編集』（四17）　一冊
昭和三年、春陽堂刊。

5 『江戸地名字集覧』（四20）　一冊
三村清三郎著。昭和四年、岡書院刊。

6 『日本劇場図史』（ナシ）　二冊
竹内芳太郎著。昭和一〇年、壬生書院刊。

7 『小歌集』（四13）　一冊
謄写刷。未刊稀覯歌謡研究資料第一巻。藤田徳太郎編。昭和一四年、壬生書院刊。

8 『姫小松』（四14）　一冊
同右第二巻。

9 『万歳歌考』（四15）　一冊
同右第三巻。

10 『春遊興』（四16）　一冊
同右第四巻。

11 『書窓』一一巻二号「製本之輯」（四21）
昭和一六年、アオイ書房刊。

12 『芸能』合綴本（四22）　一冊
昭和一八・一九年刊。

13 『中世農民の経済的日常生活』（ナシ）　一冊
日本叢書。西岡虎之助著。昭和二一年、生活社刊。

14 "Notes on Japanese Music"（二43）　一冊
町田佳声著。一九四九年、国際文化振興会刊。

15 『未刊中世小説』（四23）　二冊
古典文庫。昭和二二・二三年刊。

16 『好色貝合』（四30）　一冊
古典文庫。昭和二三年刊。

17 『中世神仏説話』（四28）　一冊
古典文庫。昭和二五年刊。

18 『春雨物語』（四25）　一冊
古典文庫。昭和二六年刊。

19 『書初機嫌海』（四26）　一冊
古典文庫。昭和二六年刊。

20 『露殿物語』（四28）　一冊
古典文庫。昭和二八年刊。

21 『古浄瑠璃集（播磨掾正本）』（四31）　一冊
古典文庫。昭和二八年刊。

22 『古浄瑠璃集（出羽掾正本）』（四32）　一冊
古典文庫。昭和二九年刊。

23 『室町時代物語』（四24）　六冊
古典文庫。昭和二九～三九年刊。

24 『古浄瑠璃集（山中常盤、其他）』（四33）　一冊
古典文庫。昭和三一年刊。

25 『説経浄瑠璃集』（四35）　二冊
古典文庫。昭和三三・三四年刊。

26 『古浄瑠璃集（角太夫正本）』（四34）　二冊
古典文庫。昭和三六・三八年刊。

27 『古浄瑠璃集（加賀掾正本）』（四27）　一冊
古典文庫。昭和四三年刊。

28 『文学研究』二巻五号（ナシ）
昭和二九年七月、日本文学研究会発行。

29 『中世文学』一～六号（ナシ）
昭和三〇～三六年、中世文学会発行。

30 『江戸町名俚俗切図集覧完成記念』（四36）　折畳み三枚袋入。謄写刷。昭和三三年、江戸町名俚俗研究会刊。

31 『江戸東京寺社集覧』（四38）　一五冊
謄写刷。昭和三八～四六年、江戸町名俚俗研究会刊。

32 『三廓細見番付』（四37）　一冊
謄写刷。昭和四〇年、江戸町名俚俗研究会刊。

33 『日本道中記』（四39）　折畳み一枚
謄写刷複製。昭和四〇年、江戸町名俚俗研究会刊。

34 『民俗芸能』（四43）　四冊
文化庁編。昭和四五～五〇年刊。

35 『近代沿革図集』（四42）　六冊
昭和四七～五二年、港区三田図書館刊。

36 『江戸切絵図』（四40）　一冊
浜田義一郎編。昭和四九年、東京堂出版刊。

37 『明治時代東京区分図』（四41）　一冊
槌田満文編。昭和五一年、東京堂出版刊。

38 『江戸小咄の比較研究』（四45）　一冊
武藤禎夫著。昭和五五年、東京堂出版刊。

39 『菊豆腐』（四44）　一冊
古川久著。昭和五五年、「古川久先生古稀祝賀出版の集まり」刊。